

講演会：小野道夫先生による認知症への挑戦と“コウノメゾット”による認知症治療について

日本文化コミュニティーセンターは、認知症診断医小野道夫先生をお迎えして講演会を行います。

場所：日本文化コミュニティーセンター（1 8 4 0 Sutter Street, San Francisco）

日時：3月29日（木曜日）午後6時から9時

講演会参加費無料、予約はEメール：[programsevents@jccnc.org](mailto:programsevents@jccnc.org) またはお電話（415）567-5505

日本の団塊の世代が75歳を迎える2025年には、65歳以上の認知症の方たちは75万人、軽度認知機能障害の方も含めると3人に1人が認知症という“認知症爆発”の時代が間もなくやってきます。どなたにとっても決して無縁のことではなく、また社会全体にとっても大きな挑戦であるといえます。認知症は忘れものだけでなく、歩けなくなる方、言葉が理解できなくなる方、うつ状態となる方、幻覚や妄想の激しい方、寝てばかりの方、食べなくなる方たちも多く自宅での介護も容易ではありません。また激しく興奮したり、暴言や暴行のある方は、施設入所を断れたり退去、退院を迫られ、いわゆる介護難民となってしまいます。多くの場合これらの症状をきたす認知症は的確に診断されず、また治療も適切になされず、それどころか間違った診断と処方により症状がさらに悪化し、介護者が心身ともに疲れ果ててしまうことも少ないのが現状です。認知症は、決してアルツハイマー病や脳血管性認知症ばかりではなく、ほかにも多くのタイプがあります。間違った診断や投薬は、これらの症状をさらに悪化させます。“コウノメゾット”は、介護者や医師が一致して適切な診断、状態の評価ができ、個々の患者さんに適切な治療の組み合わせを選ぶことができますようにします。

小野道夫医師：1976年に東京医科歯科大学をご卒業され、東京大学脳神経外科学教室に入局されました。その後もフロリダ大学等で研究を続けられ、ブラジル、アルゼンティーナ、ザンビアに渡られました。ロンドン公衆衛生熱帯医学大学院を卒業された後、ハーバード公衆衛生大学院に留学され、ネパールでは、学校地域保健プログラムを担当されました。そして、インド・ケララ州では、コミュニティープログラムで癌末期患者さんの在宅緩和ケアに従事されました。この8年間、小田医師は日本のクリニックにて、認知症診断医としてご活躍されています。

The Center：日本文化コミュニティーセンター（The Center）は、サンフランシスコ日本街にある非営利団体です。日系アメリカ人の受け継いだ文化・歴史遺産を保護し、多彩なプログラムを企画提供しています。多目的センターとしての重要な役割を担い、会議室や集会場などスペースを提供しています。